

令和7年度 授業改善推進プラン

国語	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価(定期考査)結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	文章や資料を正しく読み取り、そこから得た情報を課題に応じて整理し、論理的に言語化する能力。文章や資料に書かれている「事実」を手掛かりにして深く考え、「真実」を知ろうとする姿勢。	本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 62.0% 記述式の設定に対する正答率が都平均を下回る傾向があった。特に手紙やプレゼン資料を読んで自分の考えを記述するタイプの設問は苦手意識が強い。	・文章を読み、自分の考えを筋道立てて記述する能力の向上を目指す。課題の添削を適宜行う。 ・ICT 機器を活用して、生徒に発表させ、資料の作成・活用・読み方に慣れさせる。 2～3人で意見交換を行う場面を設定している。他者の意見に対してどう考えるかを言語化して伝え合う場面をさらに増やす。
社会	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	・社会的事象についての知識、技能の習得によって、現代社会に見られる課題解決に向けて、活用できるようにする力の向上。	・知識、技能の習得に関して、定期考査等の狭い範囲において、習得する方法に慣れてきている生徒はいるが、やや苦手意識を持つ生徒もいる。	・知識、技能の習得に向けて、各時間ごとに「ねらい」を提示し、習得すべき目標を提示している。 ・社会的事象に関して、関心が持てるよう、時事に関する話題を取り上げ、現代社会が抱える問題について議論させている。
数学	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価(定期考査)結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	・計算問題等の技能の正確性 ・発展的問題に対する思考力、判断力、表現力の育成	本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 66.0% 昨年度と今年度の都や全国の平均正答率の減少幅よりも、本校では若干抑えられたが、特に「知識・技能」において正答率を高めていくことが課題である。	習熟度別少人数指導を活かし、問題演習の回答を一人ひとり確認し、個に応じた指導や助言を実施する。さらに、数学と日常とのかかわりや数学的事象から問題を見出し、課題解決していく授業を構築することによって、思考力・判断力・表現力を養う。
理科	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価(定期考査)結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	身に着けた知識や実験で得たデータを元に、世の中の現象・事象を理論的に読み解く能力を育成する。	本校の平均正答率は 54.6%であった。都内・全国に比べ高い水準であり、基本的な知識の定着がみられる。一方で本校の課題としては、思考力が必要な問題、記述式や短文回答の問題に苦手さがみられるという点である。	教え込み型の授業ではなく「実験で得たデータから規則性・法則性を見つけようとする時間」「条件の違いが結果にどのような違いを生むか、それはなぜかを考える時間」を多く授業に取り入れる。また以上の2点を言語化する機会を増やす。

令和 7 年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
音楽	技能において自己の課題を把握し学習方法を工夫して解決する力	技能におけるチェックポイントは理解しているが、その中から自分の課題を捉え、それに合わせた学習方法を工夫する力に課題がある生徒が一定数いる。	以下の学習場面を増やすことで、課題を把握し解決する力を育成する。 ①タブレットで録画することで自分の表現を客観視し、改善点や表現の工夫について考え記述する場面。 ②他の生徒の課題解決方法を参考にする場面。③課題の指摘ではなく具体的な学習方法の助言。

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
美術	自分の考えを言葉で説明するための思考力や課題を理解し自らの表現をより良いものにしようとする粘り強さ。	学習意欲が高く、知識は概ね身につけている。しかし、自分の課題を理解し取り組みを改善していく力には課題がみられる。	柔軟な考えをもたせ視野を広げるため、相互鑑賞できる指導や学習活動を行う。 集中して自己を見つめ取り組むことができる学習環境を整える。

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
保健体育	運動構造や運動の行い方とその運動の実現に向けて自己の課題を設定し、自己調整しながら課題に取り組んでいく力。	基礎・基本的な内容や運動のポイントを理解できていない生徒が多い。しかし、自分の課題を捉え、そのための練習方法を工夫する力、改善に向けて粘り強く取り組む力に課題がある。	運動に対して苦手意識のある生徒も多いため、主体的に取り組めるよう、自己の課題に応じた練習場所の設定やペア・グループ学習の設定。その運動を行っていく際に必要な力や技術、動きのポイントを理解させるために、iPad を使用し、可視化を行う。

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
技術・家庭	・生活や社会で利用されている技術についての基礎的な理解を図り、技能を身につける力 ・よりよい生活や持続可能な社会の構築に向け、技術を工夫し創造しようとする力	単にものをつくるという活動になり「技術の見方、考え方」を働かせつつ、生活や社会における技術に関わる課題の設定、追及、解決までに至らない生徒が一定数いる。	・習得した知識や技術を身近な社会と結び付け、生徒が主体的に技術の見方、考え方を働かせるようにしていく。 ・フローチャートを用いて、作業の可視化を行い、授業ごとにPDCAサイクルを意識させ、生徒が粘り強く課題設定、課題の追及、課題解決を行う姿勢を養う。

令和 7 年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
外国語 (英語・国際)	<p>【3年】英文を正確に書く力</p> <p>【2年】単語を正確に書く力と語形変化や語法を理解する力</p> <p>【1年】文の構造を理解する力</p>	<p>基本的な英単語や基本文の理解度は高い。ペアやグループでの対話活動を積極的に行っているが、クラス全員の前でのスピーチでは声の大きさやアイコンタクトに課題がある。十分な練習時間をとって、自信をもってフォーメーションができるよう指導の改善が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙の定着を図るとともに、調べたことを発表するなどプレゼンテーションの機会を多く設ける。 ・演習問題を通して基本的な文法操作の定着を図る。 ・音読練習や会話活動に重点を置き習熟させるとともに、ワークシートを活用して文構造の定着を図る。

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的諸価値とその多様性を理解し、物事を多面的・多角的に考え他者を受容し、自身の考えを深める力 ・自分の生き方について道徳的に判断していこうとする能力 	<p>道徳ノートに自分の考えを書くことができるが、他者の考えを受け入れて自分の考えを変容させていくことができない生徒がいる。</p>	<p>話し合い活動を充実させ、他者の考えを受容する態度を培うことで、物事を多面的・多角的に考えさせ、自身の考えを深める力を養う。発問の精選をし、問い返しを行うことで生徒の考えを深め、道徳的実践意欲や道徳的実践力を培う。</p>

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで課題を設定し、他者と協力しながら集団の一員として課題解決に取り組む力 ・自分が所属する集団をより良いものにしていこうとする態度 	<p>生徒会活動や学校行事における、リーダーが育ち、生徒自ら作り上げる場面が多くなってきた。学年が上がるにつれ、集団の一員としての自覚を持ち始めた生徒も多い。学年をこえて協力できる集団作りをしていくことが課題である。</p>	<p>学級活動、生徒会活動、学校行事において、生徒たち自身に課題を設定させ、どのように解決、達成していくとよいのか考えさせる。集団の中における役割を自覚させ、集団としてよりよいものを作り上げていこうとする態度を様々な人の立場を考えさせることを重視しながら育てていく。</p>

令和 7 年度 授業改善推進プラン

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会の一員としての自覚や、将来の展望をもち、自らの在り方を深く考える力 ・主体的に課題を設定し、その課題を探究していく過程を理解し、各教科で身に付けた資質や能力を活かしながら他者と協働して課題解決していく力 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分事として課題をとらえるよう、各学年のテーマに合わせて、学年行事や、各授業とのつながりを意識させるような動機づけが必要である。 ・生徒たちが課題を探究していくためには、そのプロセスをよく理解させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs の視点をもち、各教科で身に付けた力を横断的に活用させ、課題について探究させる。 ・ガイダンスや学習活動時に学校図書館と連携し調査、探究に活かす。 ・調査活動に際しては、様々な意見を受け入れながら話し合い、自分たちのアイデアをまとめ、相手の立場に立って伝わりやすい発表を行う機会を意図して設定していく。 ・ガイダンスや中間発表、まとめの発表時には外部機関と連携し、学習の深まりの動機づけにつなげる。